

# 平成31年度 学校自己評価システムシート (県立白岡高等学校)

目指す学校像	自主と奉仕の精神に満ち、社会に貢献する人間を育てる、地域から信頼される学校
--------	---------------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>確かな学力を育成するために、授業改善をはじめとする学力向上に関する取組を推進する。</li> <li>学校・家庭・地域の絆を深め、開かれた学校づくりを推進する。</li> <li>生徒一人一人の、自立する力を育む進路指導を推進する。</li> <li>豊かな心と健やかな体を有する、明るく活力ある生徒を育成する。</li> </ol>
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価					
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )		実 施 日 令 和 2 年 2 月 7 日					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等				
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学力実態に応じた指導や学習サポートによる補習や授業支援は、欠点保有者の減少に成果をあげている。また、成績上位者支援のための進路補習は計画的に実施できている。さらに進路指導における情報提供や生徒の意欲向上に向けた取り組みを推進する必要がある。</li> <li>学校評価アンケートにおける項目「分かりやすい授業を行い、熱心に指導する」の満足度は高い。次期学習指導要領の完全実施に向け、各教科における指導内容の変更点を確認するとともに、情報を共有し校内での指導を実践する。また、指導の充実を効果的に進めるため、更なる研究と対策を講じ積極的に改善を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員一人一人が生徒それぞれが抱える学習に関する問題を的確に把握し、問題解消に向けた授業改善などの取組みを行い、生徒の学習意欲の向上につなげる。</li> <li>学習環境(プロジェクトやタブレット端末)の整備に伴い、視覚や思考に訴える効果的な学習指導を展開し、生徒一人一人が希望する進路目標を達成させるための意欲と学力の定着を推進する。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>各HRにおいて、各生徒との意見交換や進路希望を傾聴し、問題を把握するとともに教職員間で情報の共有を行い、各HRや各教科において対策を講じた学習についての指導を実践する。</li> <li>年間2回の授業公開・研究週間において、各教科ごとの研究授業・研究協議等を実施する。また、校内や教科会を通じ研修情報の共有を図り実践する。</li> <li>各HRへ新聞を配布し、活字を生徒の身近な学習教材とする。</li> <li>学習サポートを授業や補習に活用し、数学の基礎学力を高める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>各学年において、朝学習などの独自の取組を実践する。</li> <li>①②学校評価アンケートにおける項目「分かりやすい授業を行い、熱心に指導する」の肯定的評価を80%以上とする。</li> <li>③生活実態アンケートにおける「新聞を毎日読むか」肯定的評価50%以上とする。</li> <li>④1年生の70%が数学学習到達度を「中学生以上」となるよう指導する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1月に学校評価アンケートを実施。1年76%、2年80%、3年79%</li> <li>公開授業を年間2回した。(5月、11月)</li> <li>年間を通じ、各学年クラスに新聞を配付した。しかし、新聞に触れる機会は30%未満であった。</li> <li>④数学における学習サポートを積極的に活用した。学習到達度テストは3月に実施する。</li> </ol>	B	<p>生徒の学習定着度はまだまだ低い。意欲を持って楽しさを感じられる授業を実践するため、更なる授業改善が必要である。授業公開日への保護者参加率を高める工夫を行うとともに、教員の授業改善に向けた研究協議を有効に取り入れていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の成果など、もう一つ特色を出すために新たなことができるのではないかと思うので次年度は期待したい。</li> <li>次年度への課題として更なる授業改善が必要であるとして、現状に満足せず、更に教員の指導力向上に取り組んでいくということは素晴らしいと感じる。</li> <li>プロジェクトが導入され、生き生きとした資料、授業となっていた。生徒たちの意欲が出てくるような授業の進め方をしているのが非常に良かった。</li> </ul>				
									<ol style="list-style-type: none"> <li>各教科の教室における授業展開において、学習環境を有効に活用した教材の提供を行い、授業での学力定着を推進する。</li> <li>進学を目的とした補習等に参加する生徒を増加させる。</li> <li>各学期の欠点保有者を各学年20名以下とする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>年間複数回の授業での視覚的な教材提供を行い、学力の定着を実践する。</li> <li>繰り返しとした補習等に参加する生徒を増加させる。</li> <li>各学期の欠点保有者を各学年20名以下とする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての教科・科目によって効果的にプロジェクトを活用した授業を行った。</li> <li>繰り返し補習参加者を募ったが「増加」までには至らなかった。</li> <li>各学期の欠点保有者各学年20名以下を達成した。1年：1学期13名、2学期14名、2年：1、2学期ともに11名、3年：1、2学期ともに5名</li> </ol>	B
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の行事への積極的な参加や活発な奉仕活動によって、保護者や地域住民、白岡市との連携は深まっている。白岡市報への学校紹介の複数回掲載、学校ホームページの更新100回以上、保護者向けTSメール配信は23回行った。アンケート項目で「情報発信に対する評価」は肯定的な評価を得ることができた。</li> <li>「快適なスクール事業」における校内行事の変更があり、説明会の内容が変更された。今年度も体育館等の改修工事が予定され、工事日程に応じた学校説明会等の内容について工夫や改善を行い、効果的な情報提供を行う必要がある。</li> <li>創立30周年事業として始まった国際交流事業を継続して実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程、教育活動や部活動に関する情報発信の手段を工夫する。</li> <li>学校の様子について、様々な方法を用いて情報の発信を行う。</li> <li>学校説明会の実施方法と内容の改善を続けるとともに、中学校教職員、中学校生徒、保護者への情報提供を工夫し、本校教育の特長を周知する。</li> <li>P.T.A後援会・白岡市内中学校や地域の方達の協力により、国際交流事業を維持し更に発展させる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>生徒募集について工夫した内容で説明会を実施し、生徒の指導育成に重点を置いた学校教育を発信する。</li> <li>情報発信について内容を精査し、ホームページの更新年間100回以上、メール配信30回以上を行い、積極的に学校の情報を発信する。</li> <li>新聞や市の広報誌等にも情報を広く発信する。</li> <li>近隣大学との連携を深め事業をさらに推進する。</li> <li>地域行事への参加を継続する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>的確保情報提供に努め、入志願倍率が1.1倍を上回る。</li> <li>評価アンケートにおける項目「学校からの情報提供への満足度」の肯定的評価85%以上とする。</li> <li>新聞、広報誌への掲載回数を年間15回以上行う。</li> <li>新聞や市の広報誌等にも情報を広く発信する。</li> <li>近隣大学との連携を深め事業をさらに推進する。</li> <li>地域行事への参加を継続する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>教員による中学校訪問を3回実施した。</li> <li>12月15日での新聞発表の倍率1.18倍。</li> <li>TSメールも33回発信。前年比1.5倍であったが、満足度は74%にとどまった。</li> <li>情報提供に関する満足度は、1年70%、2年75%、3年76%。</li> <li>新聞等の掲載は少なく、6回であった。</li> <li>継続した大学との連携を行った。(野球部：女子栄養大 文系情報：日本工業大学)</li> <li>地元団体と連携し、レッツクリーン白岡をはじめ、わんぱく笑店街や市が主催した行事への運営などに取り組んだ。</li> </ol>	A	<p>TSメールの配信は適宜行えた。しかし、全家庭の加入とまでは至っていないので改善する必要がある。また、その他、各報道機関等での掲載記事が少なく、情報提供の工夫が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校自己評価システムシートにあるとおり地域行事への参加の継続ということで、以前から市と高校とWIN-WINの関係でボランティア活動に参加していただいているのは敬意を表する。</li> <li>特色があるとか魅力があるといった学校にするためにはボランティア活動は大切なことである。</li> <li>地域における高校の役割の重要性を、今後の特色化につなげていくということがあっても良いと思う。</li> </ul>				
									<ol style="list-style-type: none"> <li>全職員による生徒募集研修会、中学校訪問を実施する。(年3回)</li> <li>年5回の学校説明会において部活動体験や入試対策講座を実施するとともに、本校生徒を活躍させる場面に更に多く作る。</li> <li>地元からの志願者を増加させるために、地域中学校等への出前授業などの機会を増やす。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>中学校訪問の訪問校数を維持し、その方法を工夫、改善するとともに、情報提供の内容を確実に伝達する。</li> <li>学校説明会の参加者を10%増加させる。</li> <li>中学校からの要請には確実に応答し、学校の特長を周知する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>中学校訪問：教員による資料を持参した説明の機会を年3回実施した。(7月、9月、12月)</li> <li>第5回までの説明会参加者は、延べ1141名であった。昨年比ほぼ同数で増加は見られなかった。(中学生594名、保護者547名)</li> <li>近隣中学校での出前授業は2校で行った。また、上級学校訪問は6校を迎えて実施した。</li> </ol>	A
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒や保護者の進路指導に対する評価は高く、就職においては内定率100%を達成し、卒業生の全てが進路目標を達成している。また、在校生には、各学年別において段階的な情報提供を行い、各自が希望している進路先の現状を十分に理解させるとともに、自己の適性や能力も考慮した上で、意欲的な態度でより良い進路選択ができるよう指導することが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自分の興味関心、適性及び能力を踏まえて的確な進路選択ができるよう、学年段階における情報提供を展開し、進路希望の達成を確実なものとする。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>各学年において行われる進路リレーションや進路ガイダンス、分野別ガイダンス及び就職指導の内容を工夫し、効果的な指導を実施する。</li> <li>企業訪問や、入試説明会に積極的に参加し、有益な情報を生徒に提供する。</li> <li>指定校枠の確保や活用を行うとともに、新規の指定校や就職先を積極的に開拓する。</li> <li>入試方法の変更にはいち早く対応し、生徒への情報提供を即座に行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>就職内定率100%を維持する。</li> <li>生徒、保護者対象の学校評価アンケートにおける項目「進路結果についての満足度」で肯定的評価90%以上を目指す。また、学校評価アンケートの項目「将来の希望(夢)を実現するために努力している」で肯定的評価70%以上とする。</li> <li>重点指定校の決定率50%以上、及び維持、新規の指定校の獲得、並びに求人開拓を行う。</li> <li>プロジェクトを立上げ、担当者が研修に参加するとともに教職員や生徒への情報提供を的確に行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>3年生の就職内定率100%。</li> <li>生徒、保護者ともに進路についての満足度は85%であった。</li> <li>公務員3名合格、難関大学推薦合格2名を達成した。</li> <li>生徒、保護者ともに、将来への希望実現について努力し満足しているのが75%である。</li> <li>重点指定校の決定13名45%</li> <li>プロジェクトチームの立ち上げには至らなかったが、先進校での取組見学のために派遣を複数回行った。</li> </ol>	B	<p>進路希望達成は学校の最重要の課題である。今年度は進路達成に向けた成果を見ることができたが、進路指導部を中心に教員一丸となって取組を推進していかなければならない。また、進路対策としての学力の向上や定着についても一層意識を高める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職内定率100%、生徒・保護者ともに進路についての満足度は85%ということで、数人の未決定者はいるが全体としては皆さん満足して進路先が決定しているのかなと思う。</li> </ul>				
									<ol style="list-style-type: none"> <li>国際交流委員会を中心に、姉妹校との関係を維持し、特色ある行事として継続して実施する。</li> <li>次年度以降の実施に向けて、派遣生徒の確保を確実なものにするため工夫した説明会を適宜行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>国際交流事業を継続実施するとともに、姉妹校との関係を維持し、広い視野を持った人材育成に寄与する。</li> <li>生徒対象の説明会を定期的に行い、興味関心の維持と13名以上の派遣希望者の確保を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>国際交流事業として、派遣生徒に対し14回の研修を行い、意識の高揚と人材育成を行った。</li> <li>語学研修での派遣については、校内で13名を募り、姉妹校へと派遣した。</li> </ol>	B
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣が守られ、元気のよい挨拶ができる生徒が多く、部活動、学校行事も活発に行われ、自主自律の精神を育成し成果をあげている。今後も指導を継続し、生徒の研鑽を望んでいかねばならない。</li> <li>精神的に不安定で支援が必要な生徒の入学も増加している。支援が必要な生徒に対しては、教育相談委員会が機能し相談と支援の充実が図られた。今後も、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーを有効に活用し、共生社会事業支援との連携により連携を実施していく必要がある。</li> <li>保健施設部や事務室の適正な指導によって良好な学習環境が整備されている。今後も校内環境の維持に努める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の研修を通じ共通理解に基づく、一貫した指導の実践を通して、充実した学校生活を送れる環境づくりにより、引き続き取り組む。</li> <li>教育相談体制をさらに充実させ、支援が必要な生徒の把握、情報の共有や支援に取り組み、更には通級の実施に向け共通理解を深め、全教職員で対応する。</li> <li>清掃指導を徹底し、学習環境作りに取り組む。</li> <li>安全点検を定期的に実施し、安全な環境を維持する。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>生徒指導部や職員研修を通して生徒指導に関する共通理解を深め、いじめや問題行動等の早期発見、早期解決に努める。</li> <li>部活動において、技術力やチームの向上を図るとともに指導の実践を研究し、生徒の人間形成を主眼とした活動を推進する。</li> <li>支援が必要な生徒の情報を的確に把握し、共通理解を図るとともに支援体制によって組織的な取り組みを実践する。</li> <li>共生社会育成拠点校として、支援の必要な生徒へのサポートを推進する。</li> <li>毎日清掃指導や、定期的な清掃用具の充実を継続する。</li> <li>定期的な安全点検を実施するとともに、施設改修工事の完成に向けた校内外の環境整備に努める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>いじめゼロ、生徒指導の件数を100件以内とする。</li> <li>県大会以上の大会に出場する部活動11部以上、県入賞3部以上、県大会ベスト16以上5部とする。</li> <li>部活動において、技術力やチームの向上を図るとともに指導の実践を研究し、生徒の人間形成を主眼とした活動を推進する。</li> <li>中途退学者を10名以内にする。</li> <li>支援が必要な生徒の保護者に対し、丁寧な説明を行い校内での取り組みを了解し、協力してもらう。</li> <li>高相研やカレッジ、特別支援教育に関する研修会へ積極的に参加する。</li> <li>校内公開行事等において、校内美化を徹底し、来客者を迎える。</li> <li>安全点検で把握された不具合箇所については、迅速に対応し学習環境を維持する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>「いじめ」に関する調査は毎学期行った。件数は1件。生徒指導件数9件。</li> <li>県大会以上8部、県ベスト16以上2部、県入賞2部を達成した。</li> <li>中途退学者1名。</li> <li>他校での実践に関心を寄せ、本校での実施に向けて様々な角度から研究を重ねた。</li> <li>清掃活動を継続するとともに、公開される行事などの際には重点的に清掃活動を行った。</li> <li>施設の安全点検を各種行った。</li> </ol>	B	<p>学校内の生徒指導は概ね良好なうちに推移した。しかし、携帯電話の取扱いや指導の基準など検討する必要がある。生徒指導部を中心に検討を重ね、教員一丸で指導を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校則で部活動に入るように奨励しているのか、校則は生徒やPTAが改定の際、意見を言える仕組みになっているのか、一緒になって作り上げていくという風にしたほうが良い。</li> <li>学校自己評価システムシートに「部活動の活動基準に順応した活動日程等を実践する」との記載があるが、中学校においても県のガイドライン、市のガイドライン、学校のガイドラインがあり、学校のHPに公開している。所属校の学校評価における保護者の意見は、部活動の時間が短くなって良かったという意見とともっと部活動を行ってほしいという意見、それでもまだ夏休みの活動が多すぎるという意見がある。</li> <li>部活動のガイドラインは中学校でも課題となっている。今後も情報交換させていただきたい。</li> <li>携帯電話の扱いについて、指導の内容や方法について一考いただきたい。</li> </ul>				
									<ol style="list-style-type: none"> <li>重点指定校の決定13名45%</li> <li>プロジェクトチームの立ち上げには至らなかったが、先進校での取組見学のために派遣を複数回行った。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>中途退学者1名。</li> <li>他校での実践に関心を寄せ、本校での実施に向けて様々な角度から研究を重ねた。</li> </ol>	B	<p>各学年での生徒指導は概ね良好であった。進路変更を臨む生徒には引き続き適切な指導を行う。</p>
									<ol style="list-style-type: none"> <li>校内の安全対策は概ね良好に保たれた。引き続き学習環境の維持に努めていく。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>清掃活動を継続するとともに、公開される行事などの際には重点的に清掃活動を行った。</li> <li>施設の安全点検を各種行った。</li> </ol>	A	<p>校内の安全対策は概ね良好に保たれた。引き続き学習環境の維持に努めていく。</p>